

*本叢書『沖縄県史(23巻別巻1)』は、1965年より1977年にいたる間に、琉球政府及び沖縄県教育委員会の編集、発行により刊行された。

*本書は1966年2月5日に琉球政府の編集により発行されたものを原本として、復刻したものである。

*今回の復刻にあたり、沖縄県教育委員会及び各巻ご執筆の著(編)者のご諒承を得、ご協力をいただいた。

沖縄県史13 沖縄県関係各省公文書2

1966年2月5日 原本発行
1989年10月10日 復刻第一刷

著作権者との
申合せにより
検印省略

編集 琉球政府
発行者 佐藤今朝夫

制作・割田剛雄+湯原公浩

〒170 東京都豊島区巣鴨3-5-18

発行所 株式会社 国書刊行会

電話 (917)8287(代表) 振替・東京5-65209

落丁本・乱丁本はお取替いたします。 印刷・セイエウ写真印刷㈱ 製本・大口製本印刷㈱

- 全 十九年十月十四日
- 一 検疫事務視察トシテ名護地方巡回ヲ命ス
- 全 十九年十月廿六日
- 一 第一部長兼第二部長義不在中代理ヲ命ス
- 全 十九年十一月九日
- 一 第二部衛生課長兼勤ヲ命ス
- 全 十九年十一月十三日
- 一 第一部長兼第二部長代理ヲ免ス
- 全 十九年十一月三十日
- 一 免検疫委員長
- 全 十九年十一月三十日
- 一 御用有之上京ヲ命ス
- 全 十九年十二月六日
- 一 管下那覇小學校学資トシテ金三円寄附候段奇特ニ付褒
- 一 置候事
- 明治廿年三月廿四日
- 一 客管下悪疫流行之際検疫事務ニ従事シ格別勅励ニ付
- 為其賞金六拾円給与ス
- 全 十九年五月廿三日

也

明治廿一年四月四日

沖繩県知事 福原 実國

内閣書記官長子爵 田中 光顯 殿

○上京御届

私儀今般内閣へ出向被申付昨三十日着京左記之處ニ止宿

致候此段御届仕候也

明治廿一年五月三十一日

沖繩県属兼沖繩県尋常中学校校長

浅 沼 介 郎

内 閣 御 中

宿所 京橋区南鍛冶町拾一番地
加藤一匡方止宿

浅 沼 介 郎

四六二 沖繩県酒類出港税則制定ノ件

明治廿一年三月三日 閣 ④

内閣総理大臣 法制局長官 ④



- 一 知事久米宮古八重山三島巡回ニ付随行ヲ命ス
- 明治二十年六月十五日
- 一 知事國頭中頭両地方巡回ニ付随行ヲ命ス
- 全 今年全月廿五日
- 一 知事島尻地方巡回ニ付随行ヲ命ス
- 全 十一月十日
- 一 文官試験委員ヲ命ス
- 全 十一月廿八日
- 一 立木書記官上京ニ付随行ヲ命ス
- 全 廿一年一月廿七日
- 一 上級俸給与
- 全 二年二月廿一日
- 一 首里役所長中頭役所長兼務ヲ命ス
- 全 年全月 全
- 一 兼任沖繩尋常中学校長
- 本県属兼尋常中学校校長浅沼介郎御採用ノ儀ニ付御照会之
- 趣テ承致候右ノ何等差支無之候得共同人儀県務ノ都合ニ
- 依リ既ニ当地出発帰県為致候条果地ニ於テ出向ノ儀相達
- 候様直チニ申遣候間右様御承知相成度御答旁此段申遣候

各省大臣

外務 ④ 大蔵 ④ 海軍 ④ 文部花押 逋信 ④

内務花押 陸軍 ④ 司法花押 農商務 ④

○明治十七年中元老院議定上奏沖繩県酒類出港税則制

定ノ件ヲ審査スルニ右ノ同院修正ノ通ニ不都合無之ニ

付裁可セラレ可然ト認ム但今日ノ公文式ニ適セサル廉テ

ルヲ以テ附箋ノ通修正ス

勅 令 案

朕沖繩県酒類出港税則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治廿一年三月廿一日

内閣総理大臣 大 蔵 大 臣

公布後元老院檢視

○明治十七年十一月十二日議定相成候沖繩県酒類出港税則

更ニ修正ヲ加ヘ便宜公布ノ後其院檢視ニ付ス

明治廿一年三月廿二日

内閣総理大臣

元老院議長宛

○乾第五百六十八号

去月二十日付有之候沖繩県酒類出港税則今十一日本院ノ檢視ヲ經過シ本案致奉還候条御上奏有之度候也

明治二十一年四月十一日
元老院議長伯爵 大木 喬任
内閣總理大臣伯爵 伊藤 博文
去月二十日付セラレシ沖繩県酒類出港税則今十一日本院ノ檢視ヲ經過ス因テ本案ヲ奉還シ謹テ之ヲ上奏ス

明治二十一年四月十一日
元老院議長從二位勲一等伯爵 大木 喬任
○朕沖繩県酒類出港税則ヲ裁可シ茲之ヲ公布セシム

明治二十一年三月二十一日
内閣總理大臣伯爵 伊藤 博文
大蔵 大臣伯爵 松方 正義
勅令第十二号
沖繩県酒類出港税則

第一条 沖繩県ヨリ酒類ヲ他府県へ輸出スルトキハ出港税トシテ酒類壹石ニ付金三円ヲ賦課ス

第十条 前条々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑記ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ処罰スヘシ
第十一条 此税則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス
○明治二十一年四月十一日
内閣書記官 ⑨
内閣書記官長 ⑩

元老院檢視上奏沖繩県酒類出港税則
右高覽ニ供ス
參照
大蔵省
第七号
本年三月勅令第十二号沖繩県酒類出港税則施行細則左ノ通相定ム
二十一年七月七日
沖繩県酒類出港税則施行細則

第一条 酒類ヲ他府県へ輸出スル者ハ少クテモ出港二十四時以前二左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ税金相添ヘテ關稅所へ申出
其酒類ノ検査ヲ請ヒ船積免状及税金領收証ヲ受ケヘシ
一 酒類ノ種目及石数
一 出港税額

第二条 出港税ヲ徴收スルタメ那覇港ニ船政所ヲ設置ス

第三条 荷主ハ酒類ヲ他府県へ輸出スルトキ出港税ヲ船政所ニ納メ船積免状並領收証ヲ受ケ船積スヘシ
第四条 船長ハ船積免状三照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石数ヲ船政所ニ届出ヘシ
那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ

第五条 沖繩県下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ
但其官吏ハ主任官タルノ証票ヲ携帯スヘシ
第六条 出港税ヲ納メテ酒類ヲ他府県へ輸出セントシテ積シ又ハ輸出シタル者ハ出港税金三倍ノ罰金ニ処シ仍ホ其酒類ヲ没収ス既ニ売捌キタル者ハ其代価ヲ追徴ス

第七条 第四条ノ届出ヲ為サ、ル者ハ五円以上五十円以下ノ罰金ニ処ス
第八条 主任官吏ノ検査ヲ拒ム者ハ二円以上三十円以下ノ罰金ニ処ス
第九条 此税則ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕再加重數罪俱聚ノ例ヲ用ヒス

第一条ノ場合ニ於テ税金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ重量ヲ合計シ合位ニ量入ルニ止メ以下切捨ルモノトス
第四条 主任官船舶ノ検査ヲ為シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ
第五条 出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ貳円以上貳拾円以下ノ罰金ニ処ス

第二条 船政所ハ酒類ヲ検査スルニ当リ前条ノ書面ニ照シ石数相當ト認ムルトキハ毎容器ヲ開キ重量スルコトアルヘシ
第三条 第一条ノ場合ニ於テ税金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ重量ヲ合計シ合位ニ量入ルニ止メ以下切捨ルモノトス
第四条 主任官船舶ノ検査ヲ為シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ
第五条 出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ貳円以上貳拾円以下ノ罰金ニ処ス

○乾第一四七〇号
廿一年度出港税予算ノ義審査ヲ遂ケ候処左ノ金額ニ決定至
当卜信認候ニ付之ヲ沖繩県ニ相達可申候間此段及報告候也
明治二十一年七月五日
大蔵大臣伯爵 松方 正義
内閣總理大臣伯爵 黒田 清隆
殿 九月十二日
大臣 閣覽ヲ

金壹万三千五百円
出港税

四六三 沖繩県へ酒類出港税則ヲ施行スル

ノ件

受託第九一六号

沖繩県へ酒類出港税則ヲ施行スルノ義ニ付上申

沖繩県ノ義ハ置県以來日尚淺ク百般ノ税法都テ旧慣ニ據置候処明治十五年酒造税則改正追加相成漸ク其税額ヲ増加スルニ從ヒ該県ノ如キ新税法施行ナキノ地ハ其營業ニ便利ナルヲ以テ奸商等其地ニ移リ或ハ其人名字借リ巧ニ法網ヲ脱セシコトヲ謀リ為メニ内地ノ同業者妨害ヲ被ル鮮少ナラズ別紙鹿児島県令上申ノ如キ其実況ヲ知ルニ足レリ宜シク速ニ其弊害ヲ防遏セサル可カラズ然レトモ今遽ニ内地同様新税法ヲ施行セントスレハ該地管業者ハ從來薄税三慣ルノヲ以テ内地管業者ノ如ク漸次ニ其重ヲ加ヘタルモノトハ自ノ其情ヲ異ニ負擔ニ堪エサルモノ有之ノミナラス該地ハ酒類ヲ醸造スルニ玄米ヲ輸入スルト又其酒類ヲ輸出スルトノ兩度ノ運賃費ヲ要シ原價已ニ内地製ニ超ユルヲ以テ若シ其税率内地ト均一ナルトキハ一弊害ヲ防カントシテ併セテ該地固有ノ物産ヲ棄廢スルノ虞ナキヲ保シ難シ就テハ暫

(理由) 沖繩県へ酒造税則施行セシ旧慣ニ據置タル

処 (旧慣ハ一人三付或四ノ免許税ニ) 上申書ニ言フ

如ク酒造税則改正追加相成漸ク其税額ヲ増加ス

ルニ從ヒ内地ノ奸商等該地ニ移リ或ハ其人ノ

名ヲ借り酒類ヲ製造シ之ヲ内地ニ輸入シ以テ低

價ニ販賣シ為メニ内地ノ同業者ニ妨害ヲ与フル

鮮少ナラス宜シク速ニ其弊害ヲ防遏セサルハカ

ラス然レトモ該地ハ大ニ旧慣ノ異ナル所アラ

以テ内地同様ノ新税法ヲ施行シ難シ故酒類ノ出

港ニ相當ノ税ヲ課シ内地酒類ノ價直ト粗ホ其權

衡ヲ得セシメ非理ノ利益ヲ僥倖スルノ念ヲ絶テ

以テ弊害ヲ防遏セシト欲ス故ニ此ノ条ヲ設ク

第二条

船長ハ船積免状ニ照シ酒類ヲ積載シ出港前ニ於テ其積載セ

高ヲ船改所ニ届出可シ

(理由) 船長ニ本条ノ手續ヲ為サシムルハ密輸出ヲ防遏

スルニ必要ナルヲ以テ此ノ条ヲ設ク

第三条

ノ事宜ヲ斟酌シ特ニ酒類ノ出港ニ相當ノ税ヲ課シ内地酒類

ノ價直ト粗ホ其權衡ヲ得セシメ奸商ノ徒非理ノ利益ヲ僥倖ス

ルノ念ヲ絶テシムルハ適當ノ措置ト被存候尤該地酒類醸造

ノ場所ハ大抵首里那覇近傍ノ地ニ於テシ貨物出入目下那覇

一港ニ由ル景況ニ候得ハ取締向ニ於テキ格別ノ手數ヲ要セ

サルハク其方法等ハ該県令ノ見込開申為致可申候依テ御布

告按取調別紙沖繩県出張省屬官申牒相添及上申候至急御

裁定相成度候也

明治十七年九月三日 大藏卿 松方正義

太政大臣 三条実美殿

○第 号

沖繩県酒類出港税則別紙ノ通制定シ本年 月 日ヨリ

施行ス

右奉勅旨布告候事

太政大臣 大藏卿

○沖繩県酒類出港税則

第一条

酒類各府県へ輸送スルトキハ出港税トシテ酒類皂石ニ付金

三円ヲ那覇港船改所ニ納メ船積免状並領收証ヲ受分船積ス

那覇港外ノ地方ヨリ酒類積取直ニ各府県へ輸送セント欲ス

ルモノハ其積取ルヘキ酒類高並其地名ヲ那覇港船改所ニ申

出港税完納ノ上ハ直ニ出帆差許可シ

但本条許可ヲ得テ其地ニ到リ酒類積取ノ節ハ其地方役所

ノ検査ヲ受ク可シ若シ石高予算ヨリ不足シ地方役所ノ証

明書ヲ六ヶ月間ニ船改所ニ差出ストキハ過納金額下展ス

ルヘシ

(理由) 島嶼分在スル地形ナルヲ以テ酒類ヲ悉ク那覇ニ

回送セシムル是又難シ故ニ其便利ヲ人民ニ与テ

ル為メ此ノ条ヲ設ク

第四条

沖繩県下ヨリ出港スル船舶ハ主任官ニ於テ検査スルコトヲ

ルヘシ

(理由) 酒類ヲ隠密輸送スルノ弊害防禦ノ為メ此ノ条ヲ

設ク

第五条

出港税ヲ納メシテ酒類ヲ積載セ各府県へ輸送セント謀リ

又ハ各府県へ陸揚セシモノハ出港税金高三倍ノ罰金ニ処シ

尚其ノ酒類ヲ没収ス虎捌キタルモノハ其代価ヲ追徴ス

請可伺出事

明治十七年 月 日

大藏卿 松方正義

(第一付属書一)

沖繩県下製造輸入酒賦税之義ニ付再申

本年一月十八日附乾第四八号ヲ以当県下鹿兒島市街酒造管業者ヨリノ願書写相副沖繩県下製造泡盛酒輸入税賦課ノ義及上申置候処猶亦県下薩摩高城岡郡酒造業者共ヨリ別紙写之通願書差出シ候ニ就テハ最前上申ノ通事実有税酒類販路ノ妨害不抄候ニ付沖繩県下製造ノ酒類(泡盛酒)ニシテ当県下ハ輸入スル者ハ其際相当輸入税ヲ賦課シ販売為致候様特別ノ方法御設置相成度尤自今右酒類輸入ノ期節ニシテ

業者共ヨリモ再申出候案至急何分ノ御詮議遂サセテラレ度此段再応及上申候也
明治十七年五月廿四日

鹿兒島県令渡辺千秋代理

鹿兒島県大書記官 上村行微

大藏卿 松方正義 殿

(理由) 本条罰金ノ額及ビ没収例ハ酒造税則無鑑札管業

酒類隠蔽等ノ罰例ニ比較シテ定タム

第六条

第二条ノ届出ヲ為サ、ルモノハ五円以上五拾円以下ノ罰金

ニ処ス

(理由) 本条罰金ノ額ハ煙草税則帳簿ノ調製ヲ怠リタル

モノ及ビ貼用印紙ニ消印セサル等ノ例ヲ取り五

円以上五拾円以下ト定ム

第七条

此ノ規則ニ違反シタルモノハ刑法ノ不論罪及ビ輕減再犯加

重數罪併発ノ例ヲ用ヒス

(理由) 各税則ノ例ニ拠ル

第八条

前条々ノ場合ニ於テ家族雇人又ハ付屬員ノ所犯ニ係ルモノ

ト雖モ其ノ荷主又ハ船長ヲ処罰スヘシ

(理由) 前同シ

沖繩 県

○ 今般 年 月 第 号布告ヲ以テ酒類出港税ヲ徴セラレ候ニ付テハ該酒類出港ノ諸取締細則ハ其ノ県ニ於テ取

(第一付属書二)

酒類管業妨害者ノ義ニ付願

明治十三年第四拾号公布ヲ以テ酒造税則ヲ改正セラレ爾來十五年第六拾号公布ヲ改正追加ラテ私共謹テ御法令ヲ遵奉仕リ管業罷在候処方今管業ヲ妨害スルノ甚シキ者アリテ上ニ對シテハ狡猾ニモ税網ヲ脱シテニ在テ私共管業者ノ妨害トナルコト実ニ名状ス可カラズ之レ固ヨリ罰則ニ正条ナシト雖トモ私共ノ黙過シ能ハサル所ナルヲ以テ愛ニ其事由ヲ開申仕ラレ抑モ右第四拾号公布ヨリ次ニ第六拾号公布ニ依リテ酒造酒ノ税額頓ニ増加シ一般酒家ノ利ヲ見ルノ難キコト世間皆同情態ナリ然ラニ三年前ヨリ当県下ノ商

薩摩高城岡郡ノ焼酎ト沖繩焼酎ト造費比較表

種 目	地 名		代 金	鑑 札 稅 額	凡 造 石 稅 額	運 送 費	運 賃 稅	合 計
	高 城 郡	沖 繩 郡						
玄 米	百 石	百 石	四 百 円	三 拾 円	三 百 五 拾 円	三 拾 円	三 拾 九 円	七 百 八 拾 円
金	四 百 円	四 百 円	三 拾 円	三 拾 円	三 拾 九 円	三 拾 九 円	三 拾 九 円	四 百 六 拾 九 円
運 送 費								
運 賃 稅								
燒 酎 稅								
合 計								

元來高城郡薩摩郡ニ於ケル酒造營業人ハ重モ二鹿兒島市街ニ運送シ之レカ売却ナス目的ニテ毎年釀造スル者ナレハ獨リ鹿兒島郡營業者ノ妨害トナルノミナス私共營業者ノ酒造營業人ハ廢業シ無稅区域內ニ不正ノ利ヲ射シコト取締ラセラレハ一年ヲ加ヘ鹿兒島郡ノ固ヨリ県下々ニ付シ去ル能ハサル所ナリ今ニシテ此脱稅酒ノ暴虎ヲ御稅則範圍營業シナカ悞然願ル所ナキハ私共營業人ノ為メ然テハ利益トナルモ元ト不正トモ云フヘキ酒ヲ現ニ私共自ラヲ商フコトナレハ其量ノ増シテ餉ヲ廉ニスルハ其商事ニ取繩燒酎ニ水ヲ加ヘ其度ヲ低フシ鹿兒島燒酎ニ改造シテ之レ持シ得クシヤ加之テラス第二類酒造人及小売商ニ於テモ沖タル影響ヨリ來ス所ノ妨害ニシテ正業者何ニ依テ營業ヲ維万本一式平均此高四千四百余石ノ内地ニ濫入暴虎ヲ逞フシハ居レリ是レ全ク十六年中沖繩県ヨリ輸入シタル燒酎凡式石余ニシテ十六年度ニ至テ猶ホ夥多ノ石高ハ売却クヌ持貯十五年度ハ釀造人ノ數凡三十拾余名ニ減シ釀造高ハ凡千八百余ニ及ヒ此石高ヲ売却シ終リタルハ同年十月比ナリシモ翌右二郡ノ燒酎釀造人ハ凡四拾余名アリテ釀造高モ凡式千石坊害トナルモ實ニ僅少ナラサルナリ之ニ依テ明治十四年度ニ獨リ鹿兒島郡營業者ノ妨害トナルノミナス私共營業者ノ

濫リニ正業者ニアラサル者ノ買売ニ係ハルコトナク酒類營業免許者ニ限り之ヲ買売スルヲ得ルノ特別ナル御制ヲ設ケラレ其受売石數ノ稅則ニ依リ課稅セラレ内地ニ在テハ無稅酒ナク又蹂躪スルコト無カラシメコトヲ希望仕候爰ニ燒酎營業人共謹テ事由ヲ開申シ特別ノ御制法ヲ設ケラレ私共營業ヲ御保護被成下度備ニ奉嘆願候也

- 薩摩國薩摩郡同田町百六拾八番戸
酒造營業人 鮫嶋 弥右衛門
同國 同郡 同町
右 同 官 里 宗兵衛
同國 同郡 同町百五拾八番戸
右 同 上 野 富左衛門
同國 同郡 同町百三拾八番戸
右 同 児 玉 茂平次
同國 同郡 同町百廿七番戸
右 同 浦 嶋 正兵衛
同國 同郡 同町五拾七番戸
右 同 富 田 新太郎
同國 同郡 同町二拾四番戸

ヲ企圖スルノ外ナク果シテ然ラハ大政府ニ於テ稅額ノ減スル幾許ヲヤ試ニ高城郡薩摩ノ両郡ニ就テ明治十四年度ヨリ融鑿鑿シテ酒家ノ資本欠乏ニ起因スルヨリハ寧ロ沖繩ヨリ無稅酒ノ乱入シテ正稅酒ヲ蹂躪スルノ暴ナルニ原ツカサル可クシヤ十六年ノ末期ハ米價モ非常ニ下落シ隨テ沖繩ニ廻漕シタル米數頗ル多ク現ニ十一月五日ヨリ本年一月三日ヲ僅々ニヶ月間ニテモ平安丸外九艘ノ船舶ニテ運送シタル米二萬三千二百石余ニシテ概本之等ハ沖繩燒酎ニ釀造スルノ元資即チ内約米ナリト之ニ依テ見レハ今ヨリ其無稅酒ノ輸入モ幾許ナルヤ其多數ハ殆ト今ヨリ予想シ能ハサル程ナリ巴ニ鹿兒島市街ニ於テ本年輸入スヘキ燒酎ノ前約定価売買ヲ為ス者マテモアリト是ヲ以テ毛稅網ヲ脱スル酒ヲ暴虎セント企圖スル徒ノ往々増殖スル實ニ明ナリ仰キ願クハ今ヨリ防禦ノ御計畫ヲ被為立ニハ無稅酒ノ暴虎ヲ防カレニニハ私共正稅營業者ヲ妨害セス御政旨ニ遵テ永ク維持仕ルヘキ様奉願度最モ沖繩県造酒ヲ御差止ニ相成ルヘキ儀ハ人心ノ離合一國ノ安危ニモ或ハ關スル場合アリテ甚ダ難カルヘキコトノ深ク奉恐察候者唯々沖繩県酒類ノ内地ニ渡リテ

- 同國 同郡 同村三百五拾六番戸
右 同 永 井 井 次 助
同國 同郡 同村三百十三番戸
右 同 永 井 嘉兵衛
同國 同郡 同村三百七拾三番戸
右 同 井 上 芳太郎
明治十七年五月十四日
前書之通相違無之候也
右向田町戶長
川 田 四郎 助
右白和町戶長
大 館 源 吾

前書之通相違無之候也

前書之趣相違無之候也

右五代村戸長

貴嶋

正之

右小幡村戸長

塚元

嘉左衛門

明治十七年五月十四日

鹿児島県令 渡辺千秋殿

(第一付属書3)

沖繩県稅務上取締之儀二付内申

沖繩県十六年度租稅領収下シテ出張二付テハ命令書第拾三

条ニ依リ賦稅收稅及徵稅費三關シ改良ヲ要スル意見追テ具

申可仕見込ノ事項不少候得共差向キ急施ヲ必要ト相考候事

件左ニ

抑モ沖繩県稅法ハ特典ニ依リ繰テ旧慣据置ノ処廢藩已來民

心漸ク進歩シ隨テ狡猾ノ弊追々増長シ旧法ノ欠所ニ乘シ人

民ニ於テ租稅ヲ意納スルモノ多ク加之最モ甚シキ弊害ハ開

切以下村吏等ニ於テ租稅ヲ私ニ流用シ為メニ未納ヲ醸スモ

不少故三速ニ公正ナル租稅取纏簿ヲ調製セシメ臨時県官

ノ点檢ヲ要シ之レカ悪弊ヲ相除キ度又燒耐稅ノ如キハ旧藩

引繼キノ際即十二年度ニ於テハ營業者百二十余人ニシテ年

稅額金貳千五百八拾余ナリシモ年々相減シ現今ニ至テハ

僅ニ六拾四人ニシテ年稅金千六百拾圓ニ不過日ノ現數ニ因ル

ニ付其ノ實際如何ヲ探偵スルニ首里近傍金城村外三ケ村ニ

於テ現在營業ノモノ貳百余人之レ有リ而シテ該燒耐ノ費用

タル県下ハ一般其ノ他ハ鹿児島大島徳ノ島等ノ各所ニ輸出

スル石數旧時ノ高ヨリ増加スル辭ナカラサル趣ナルモ那覇

商又ハ首里土前陳ノ如ク殆ト一千円ノ稅額ヲ減セシハ蓋シ漸

次民心狡猾ニ達スルモ之レカ取締法ナキヨリ原因セシモノ

ニ付自今營業者ニ監札ヲ授与シ隣檢ヲ為サハ自然其ノ弊ヲ

矯正スル容易ノ義ト存候且又烟草ノ商況ヲ察スルニ士人都

鄙ヲ問ハス日當食料等ノ粗ニ比スレハ稍々良品ヲ嗜好スル

風アリテ県下、産出ノモノハ悪シク殊ニ品ナキカ故年分鹿兒

島ヨリ輸入ヲ仰ク斤量凡六万斤ノ 佃養土二抛リ那覇首里ノ阿

所ニ於テ烟酒スル部分ノ 多キ仕入ヲ要スレクモ該營業人ニシ

テ鑑札ヲ所持スルモノナシ此項在鹿兒島營業者ニモ關係

候義ニ付當県ノミノ取締ニテハ首尾完全致サルヲ以テ先ッ

前書之通相違無之候也

前書之趣相違無之候也

右五代村戸長

貴嶋

正之

右小幡村戸長

塚元

嘉左衛門

明治十七年五月十四日

鹿児島県令 渡辺千秋殿

(第一付属書3)

沖繩県稅務上取締之儀二付内申

沖繩県十六年度租稅領収下シテ出張二付テハ命令書第拾三

条ニ依リ賦稅收稅及徵稅費三關シ改良ヲ要スル意見追テ具

申可仕見込ノ事項不少候得共差向キ急施ヲ必要ト相考候事

件左ニ

抑モ沖繩県稅法ハ特典ニ依リ繰テ旧慣据置ノ処廢藩已來民

心漸ク進歩シ隨テ狡猾ノ弊追々増長シ旧法ノ欠所ニ乘シ人

民ニ於テ租稅ヲ意納スルモノ多ク加之最モ甚シキ弊害ハ開

切以下村吏等ニ於テ租稅ヲ私ニ流用シ為メニ未納ヲ醸スモ

前ノ貳項ノ次第ヲ県官ニ一応内議致候処旧價取調ノ上追テ

何分ノ取締可致趣ニ候得共其ノ処分ヲ緩慢ニ付シ置クトキ

ハ村掟已上間切吏員ハ準官吏ノ取扱ニ付眼前統々不測ノ官

損ヲ可生又燒耐ノ如キハ畜ニ稅額ノ減スルノミナラス鹿兒

島等ノ同營業者ハ当県下ニ移転シ切ニ無稅ノ酒類ヲ製出ス

ルニ至ルヘクト慮致候茶宜シク御賢察ノ上併テ速ニ相当

ノ取締被相立可終ト存候此段内申候也

明治十七年四月二十日

沖繩県出張

六等属 官田直次郎

租稅局長 市川正寧殿

(第二付属書1)

沖繩県燒耐稅之事

是ハ濫觴不詳

戸數ニ賦課シ月ニ收入スルノ方法ニシテ造有高ニ不開

栗燒耐釀造スル者尙軒三付一ケ月銅錢百貫文(此金貳

拾五文(此金三錢八厘)ヲ收入ス新ニ營業スルモノハ翌

月ヨリ收稅シ廢業スルモノハ其月ヨリ免稅ス

ノ不少故三速ニ公正ナル租稅取纏簿ヲ調製セシメ臨時県官

ノ点檢ヲ要シ之レカ悪弊ヲ相除キ度又燒耐稅ノ如キハ旧藩

引繼キノ際即十二年度ニ於テハ營業者百二十余人ニシテ年

稅額金貳千五百八拾余ナリシモ年々相減シ現今ニ至テハ

僅ニ六拾四人ニシテ年稅金千六百拾圓ニ不過日ノ現數ニ因ル

ニ付其ノ實際如何ヲ探偵スルニ首里近傍金城村外三ケ村ニ

於テ現在營業ノモノ貳百余人之レ有リ而シテ該燒耐ノ費用

タル県下ハ一般其ノ他ハ鹿児島大島徳ノ島等ノ各所ニ輸出

スル石數旧時ノ高ヨリ増加スル辭ナカラサル趣ナルモ那覇

商又ハ首里土前陳ノ如ク殆ト一千円ノ稅額ヲ減セシハ蓋シ漸

次民心狡猾ニ達スルモ之レカ取締法ナキヨリ原因セシモノ

ニ付自今營業者ニ監札ヲ授与シ隣檢ヲ為サハ自然其ノ弊ヲ

矯正スル容易ノ義ト存候且又烟草ノ商況ヲ察スルニ士人都

鄙ヲ問ハス日當食料等ノ粗ニ比スレハ稍々良品ヲ嗜好スル

風アリテ県下、産出ノモノハ悪シク殊ニ品ナキカ故年分鹿兒

島ヨリ輸入ヲ仰ク斤量凡六万斤ノ 佃養土二抛リ那覇首里ノ阿

所ニ於テ烟酒スル部分ノ 多キ仕入ヲ要スレクモ該營業人ニシ

テ鑑札ヲ所持スルモノナシ此項在鹿兒島營業者ニモ關係

候義ニ付當県ノミノ取締ニテハ首尾完全致サルヲ以テ先ッ

此免許人壹人

金貳拾貳錢八厘

但二月廢業ニ付一ケ月分此ノ人員一

但一月ヨリ六月迄六ケ月分此延人員

六人二人ニ付金貳圓

此免許人壹人

金貳圓

但四月廢業ニ付一月ヨリ三月迄三ケ

月分此延人員三人一人ニ付金貳圓

此免許人壹人

金六圓

但五月廢業ニ付一月ヨリ四月迄四ケ

月分此延人員八人一人ニ付金貳圓

此免許人叁人

金拾六圓

但六月廢業ニ付一月ヨリ五月迄五ケ

月分此延人員拾一人二人ニ付金貳圓

此免許人叁人

金貳拾圓

但一月ヨリ六月ヲテ六ケ月外此延人

員四百六拾貳人壹人ニ付金貳圓

此免許人七拾七人

金九百貳拾四圓

内

此酒造免許人八拾四人

一金九百六拾八圓貳拾貳錢八厘

明治十六年自一月半年分酒造免許稅什取

(第二付属書2)

納期毎月廿五日限り

右之通候也

明治十六年十月廿日

○甲三一九号

別紙大蔵省上申沖繩県三酒類出港税則ヲ施行スルノ件審査

スル処左ノ如シ

案ズルニ稅政ノ要務ハ稅課ノ額ヲ均ニシ徵收ノ費ヲ減

省スルニ在リ蓋シ稅課ノ額均一ナラザレバ民ノ負擔ニ輕

重アリ徵收ノ費減省セザレハ人民之ヲ苦ム沖繩県民ノ

如キ内地ノ國民ト同一政府ノ下ニ居リ全一政府ノ保護ヲ

受ケ理宜ク内地人民ト其ノ負擔ヲ均一ナラシムベキヤ

カナリ然レトモ置県以來日尚ホ深カラズ自般ノ稅法概シ

テ旧慣ニ仍ラシム是亦勢ノ巴ム可カラザルニ出ル者ナリ

然ルニ内地ノ好民其ノ此ノ如キヲ觀テ奇貨可居ト為シ彼

ノ地ニ移リテ通脫ヲ謀ルコト果シテ鹿兒島県令上申ノ如

クナラバ管ニ人民ノ負擔ニ輕重ノ差ヲ生スルニミナラス

内地良商ノ産業ヲ妨害スル漸ク大ナラム今大蔵卿出港稅

則ヲ設クルヲ案ズルニ此ノ弊害ヲ防ギ且ツ頗ル稅課ノ額

ヲ均一ナラシムルノ便法ニシテ徵收ノ費ニ僅ニ一ノ船改

所ヲ新置スルニ過ギスシテ其額極メテ些少ナレバ亦民ヲ

苦シムシムルノ憂ナク至当ノ処置ト思量ス但シ稅則按中

條款ノ錯雜セル者アリ行文ノ粗末ナル者アリ故以テ此

ノ如ク修正シ此ノ如ク安排シ裁可セラレテ可然ヤト視認

ス

右ニ由リ布告案左ノ通ニテ可然哉上申候也

布告案

總會議決ノ通

明治十七年十月廿日

參事院議長 福岡 孝弟 國

大政大臣 三条 実美 殿

元老院議定

例文

總會議決

布告案

沖繩県酒類出港税則左ノ通制定シ本年 月 日ヨリ施行ス

沖繩県酒類出港税則

第一条 沖繩県ヨリ酒類ヲ他府県へ輸出スルトキハ出港稅

トシテ酒類壹石ニ付金三円ヲ賦課ス

第二条 出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港三船改所ヲ設置ス

第三条 荷主ハ酒類ヲ他府県へ輸出スルトキ出港稅ヲ船改

所ニ納メ船積免狀並領收証ヲ受ケ船積スヘシ

第四条 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ

其積石數ヲ船改所ニ届出ヘシ那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出

航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ

第五条 沖繩県下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査

スルコトアルヘシ

但其官吏ハ主任官タルノ証票ヲ携帯スヘシ

第六条 出港稅ヲ納メシテ酒類ヲ他府県へ輸出セシト謀

リ又ハ輸出シタル者ハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其

酒類ヲ没收ス既ニ売却キタル者ハ其代価ヲ追徵ス

第七条 第四条ノ届出ヲ為サハル者ハ五円以上五十円以下

ノ罰金ニ處ス

第八条 此規則ニ違反シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕

再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第九条 前条々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者

又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長

ヲ処罰スヘシ

右奉勅旨布告候事

年 月 日

大 政 大 臣
大 藏 卿

大 臣

○明治十七年十月廿三日

内閣書記官 ㊟

- 左大臣 熾 仁 親 王 ㊟
- 參 議 山 東 有 朋 ㊟
- 參 議 伊 藤 博 文 ㊟
- 參 議 西 郷 從 道 ㊟
- 參 議 井 上 馨 ㊟
- 參 議 山 田 顯 義 ㊟
- 參 議 松 方 正 義 ㊟
- 參 議 川 村 純 義 ㊟
- 福 岡 孝 弟 ㊟



明治十七年十月二十九日

○大蔵省上申沖繩県三酒類出港税則施行之儀布告之事
右謹テ裁可ヲ仰ク

參 議

- 大 木 伊 藤 花 押 井 上 國 松 方 ㊟ 川 村 ㊟ 佐 々 木
- 山 根 ㊟ 西 郷 國 山 田 ㊟ 大 山 福 岡 ㊟

審査進呈ス依テ回議ニ供ス

大蔵省上申沖繩県三酒類出港税則施行之儀布告按參事院

○明治十八年七月廿五日

第一局

上申書案

別紙大藏省上申沖繩県酒類出港税則制定ノ件ハ参事院上票ノ通御裁可相成可然哉仰高裁候也

○別紙元老院議定上奏沖繩県酒類出港税則制定ノ件審査スル処同院議定ノ通裁可セラレ但施行日限ノ義ハ来月

日ヨリセラレ可然ト視認ス此段上申候也

明治十八年七月廿五日

参事院議長子爵 福岡孝弟 團

太政大臣公爵 三条 実美 殿

四六四 沖繩県警部長渡辺隆昇等ノ件

内務大臣 第四百三十二号 官房甲

別紙沖繩県警部長渡辺隆昇等ノ件上奏書進達ス

明治二十一年九月廿日

内務大臣伯爵 山県有朋 團

陸叙奏任官四等賜下叙俸
右謹テ奏ス

明治二十一年九月廿四日

内閣總理大臣伯爵 黒田清隆 花押

四六五 沖繩県知事福原美元老院議員二内務省社寺局長丸岡莞爾沖繩県知事二転任ノ件



任元老院議員 沖繩県知事陸軍少将從四位勳二等 福原 実

叙勅任官一等 元老院議員 從四位 勳二等 福原 実

叙勅任官一等 内務省社寺局長正五位勳六等 丸岡 莞爾

任沖繩県知事 沖繩県知事正五位勳六等 丸岡 莞爾

右謹テ裁可ヲ仰フ

叙勅任官二等賜下叙俸

丸岡 莞爾

内閣總理大臣伯爵 黒田清隆 殿

○沖繩県警部長渡辺隆昇等ノ件

陸叙奏任官四等賜下叙俸

沖繩県警部長 奏任五等 上級 俸 渡辺 隆

右明治十五年十月神奈川県警部長拜任以來滿五年以上及

七職務勳ノモノニ付頭書之通命セラレ度謹テ上奏ス

明治廿一年九月廿日

内務大臣伯爵 山県有朋 團

(付屬書)

渡 辺 隆

十五年十月任神奈川県警部長

十六年二月任四等警視兼一等警察役

十九年二月非職

同年八月任宮崎県警部長五等

廿一年四月任沖繩県警部長五等

滿五年六月但非職ヲ除フ



沖繩県警部長從七位 渡辺 隆

明治二十一年九月十八日

内閣總理大臣伯爵 黒田清隆 花押

○明治廿一年九月十四日

内閣書記官 ⑩

内閣書記官長 ⑩



各省大臣

外務 ⑩	大藏 ⑩	海軍	文部花押	通信 ⑩
内務 ⑩	陸軍 ⑩	司法 ⑩	農商務花押	

沖繩県知事福原美元老院議員二内務省社寺局長丸岡莞爾沖繩

繩県知事二転任ノ件

右閣議ニ供ス

沖繩県知事陸軍少将從四位勳二等 福原 実

任元老院議員

元老院議員從四位勳二等 福原 実

叙勅任官一等

内務省社寺局長正五位勳六等 丸岡 莞爾

任沖繩県知事

沖繩県知事 正五位 勳六等 丸岡 莞爾

叙勅任官二等賜下叙俸

右閣議ヲ請フ
明治三十七年三月二日 内務大臣子爵 芳川 顯正 閣
内閣總理大臣伯爵 桂 太郎 殿

五五 沖縄県滞納旧租延納法案及沖縄県酒類出港税則中改正法律案



大蔵大臣提出

- 一 非常特別税法案
- 一 医薬用工業用酒精戻税法中改正法律案
- 一 明治三十四年法律第十号中改正法律案
- 一 沖縄県酒類出港税則中改正法律案
- 一 醬油税則中改正法律案
- 一 自家用醬油税法中改正法律案
- 一 関稅定率法中改正法律案
- 一 輸入原料砂糖戻税法廢止法律案

内閣總理大臣伯爵 桂 太郎 殿

- 一 地租徵收ニ関スル法律案
 - 一 沖縄県滞納旧租延納法案
- 右謹テ上奏シ恭シク聖裁ヲ仰キ併セテ帝國議會ノ議ニ付セラレムコトヲ請フ

明治三十七年三月十四日

内閣總理大臣伯爵 桂 太郎 花押

○沖縄県滞納旧租延納法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一条ニ依リ此段申進候也

明治三十七年三月二十八日

貴族院議長公爵 徳川 家達 閣

内閣總理大臣伯爵 桂 太郎 殿

○貴族院ハ両院ノ議ヲ經タル沖縄県滞納旧租延納法案ノ裁

可ヲ奏請ス

明治三十七年三月二十八日

貴族院議長公爵 徳川 家達 閣

(付屬書)

沖縄県滞納旧租延納法案

沖縄県ニ於ケル明治三十五年以前ノ地租ニテ非常特別税法施行ノ際滞納ニ保ルモノハ同法施行中其ノ徵收ヲ為サス前項ノ地租ハ非常特別税法廢止ノ年ノ翌年ヨリ十年間ニ平分シテ之ヲ徵收ス

○ 沖縄県酒類出港税則中改正法律案

右勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十七年三月二十二日(衆)ハ、内閣總理大臣 大蔵 大臣

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル沖縄県酒類出港税則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治卅七年二月卅一日

内閣總理大臣 大蔵 大臣

法律第六号 上奏ノ通

○ 沖縄県酒類出港税則中改正法律案
朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル醬油税則(以下欠ノ編者註)

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於テ可決セリ依

テ御執奏相成度議院法第三十一条ニ依リ此段申進候也

明治三十七年三月二十八日

貴族院議長公爵 徳川 家達 閣

内閣總理大臣伯爵 桂 太郎 殿

○貴族院ハ両院ノ議ヲ經タル沖縄県酒類出港税則中改正法

律案ノ裁可ヲ奏請ス

明治三十七年三月二十八日

貴族院議長公爵 徳川 家達 閣

(付屬書)

沖縄県酒類出港税則中改正法律案

沖縄県酒類出港税則中左ノ通改正ス

第一条中「移出スルトキハ」ノ下ニ「旅客ノ携帶品タルト否トヲ問ハス」ヲ加フ

第二条 命令ヲ以テ定ムル港灣ニ由ルニ非サレハ沖縄県

ニ於テ製造シタル清酒濁酒白酒味淋又ハ燒酎ヲ帝國內ノ

他ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス

第三条中「船改所ニ」ヲ削ル

第四条第一項中「船改所」ヲ「稅務署」ニ改メ第二項ヲ削ル
附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五二六 仙山処分調査ニ関スル職員設置ノ件

明治三十九年三月廿六日

内閣總理大臣
大外務 大藏 海軍 文部 大田花押 大田花押
大内務 陸軍 司法 農商務 大田花押 大田花押

別紙農商務大臣請議沖繩県仙山処分調査ニ関スル職員設置ノ件ヲ審査スルニ右ハ沖繩県下仙山ハ土地整理処分ニ依リ國有二帰シタルモ永遠存置スルノ必要ナキモノ多シ而シテ地元人民ハ之ヲ國有二帰シタルヲ以テ大ニ恐慌ヲ來シ頻々盜伐ヲ加ヘ遂ニ荒廢ニ至ルノ虞アルヲ以テ急速ニ之ヲ存置ノ要否ヲ調査シ其ノ必要アルモノハ地元人民ニ先立テ官要否ヲ調査シ其ノ必要アルモノハ地元人民ニ先立テ官

閣議ヲ請フ
明治三十九年三月二十日 農商務大臣 松岡康毅 閣
内閣總理大臣 俊爵 西園寺 公望 殿
○朕沖繩県仙山処分調査ニ関スル臨時職員設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十九年三月二十一日 内閣總理大臣

農商務大臣
内務大臣

勅令第六十号

沖繩県仙山処分調査ノ職員ヲ置キ沖繩県ニ属セシム

山技師 專任一人

山技手 專任二人

附則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

理由書

沖繩県下ノ仙山ハ土地整理処分ニ依リ國有二帰シタルモ永遠存置スルノ必要ナキモノ多シ然リ而シテ古來

第四条第一項中「船改所」ヲ「稅務署」ニ改メ第二項ヲ削ル
附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令案

呈案附箋ノ通

参照

○明治三十九年度予算

農商務省所管

第十二款 仙山処分調査費

第一項 仙山処分調査費

目	三十九年度要求額
第一目 委任條給	一、二〇〇円〇〇
第二目 判任條給	七九二、〇〇

○□□第二〇号

一 沖繩県仙山処分調査ニ関スル職員設置ノ件

仙山ヲ以テ所有地ノ如ク思惟シタル地元人民ハ悉皆之ヲ國有二帰シタルヲ以テ大ニ恐慌ヲ來シ頻々盜伐ヲ加ヘ遂ニ荒廢ニ至ルノ虞アルヲ以テ急速ニ之ヲ存置ノ要否ヲ調査シ其ノ必要アルモノハ地元人民ニ先立テ官民相互ノ利便ヲ図ルノ必要アリ依テ之ヲ臨時調査ノ機關ヲ特設シ調査及処分ヲ為スルノ必要アルニ由ル

五二七 北海道及沖繩県ニ於ケル区町村公民権及民権ニ関スル件

明治三十九年六月八日

内閣總理大臣

法制局長官 ㊟

法制局長官 ㊟

外務 大藏 海軍 文部 大田花押 大田花押
内務 陸軍 司法 農商務 大田花押 大田花押

別紙内務大臣請議北海道及沖繩県ニ於ケル区町村公民権及区町村會議員ノ選挙權ニ関スル件ヲ審査スルニ別案法律ノ制定ニ伴ヒ北海道及沖繩県ノ区ニ関シテモ同様ノ規定ヲ設

明治四十一年三月三日

内閣総理大臣 侯爵 西園寺公望
農商務大臣 松岡康毅

法律第七号(官報三月四日)

国有林野法中左ノ連改正ス

禮県ニテ左ノ一項ヲ加フ

沖繩県ノ国有林野ノ貸付使用及売却並其ノ産物ノ処分

ニ関シ必要ナル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコ

トヲ得

附則

本法ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

五三八 沖繩県ニ於ケル旧租免除ニ関スル

法律案

衆議院ハ沖繩県ニ於ケル旧租免除ニ関スル法律案ニ付テ更

ニ願議ヲ尽サレハトテ奉請ス

明治四十一年三月十日

衆議院副議長 箕浦勝人

衆議院書記官長 林田亀太郎

○沖繩県ニ於ケル旧租免除ニ関スル法律案

沖繩県ニ於ケル明治三十五年以前ノ地租ニシテ未ダ徴収セ

サルモノハ之ヲ免除ス明治三十七年法律第十三号ハ之ヲ廢

止ス

五三九 沖繩県及東京府小笠原島伊豆

七島ニ於ケル酒造税ニ関スル

法律案外三法律案

明治四十一年三月十二日

内閣総理大臣

法制局長官 ㊦

外務大臣 花押	大藏大臣 花押	海軍大臣 花押	文部大臣 花押	逓信大臣 花押
内務大臣 花押	陸軍大臣 花押	司法大臣 花押	農商務大臣 花押	

別紙面院ノ議決ヲ経タル沖繩県及東京府小笠原島伊豆七島

ニ於ケル酒造税ニ関スル法律案外三法律案ヲ審査スルニ貴

族院議長上奏ノ通裁可ヲ表請セラレ可然ト認ム

△

朕帝國議會ノ協賛ヲ経タル沖繩県及東京府小笠原島伊豆七

島ニ於ケル酒造税ニ関スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

明治四十一年三月廿六日

内閣総理大臣 大藏大臣

法律第二十四号

上奏案ノ通

朕帝國議會ノ協賛ヲ経タル沖繩県酒類出港税則中改正法律

ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月廿六日

内閣総理大臣 大藏大臣

法律第二十五号

上奏案ノ通

朕帝國議會ノ協賛ヲ経タル酒母膠及麴取締法中改正法律

ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

○ 沖繩県及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル

酒造税ニ関スル法律案

右衆議院ノ議決ヲ経タル政府提出案本院ニ於テ可決セリ依

テ御執奏相成度議院法第三十一条ニ依リ此段申進候也

明治四十一年三月十日

貴族院議長 公爵 徳川家達 團
内閣総理大臣 侯爵 西園寺公望 殿

○貴族院ハ面院ノ議ヲ経タル沖繩県及東京府小笠原島伊豆

